

小規模多機能型居宅介護「令和4年度サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人星隆会	代表者	田中朝美	法人・事業所の特徴	法人としては家庭的な雰囲気を中心に、園児、高齢者、家族、その「ひとりひとりに寄り添う」ことを大事にしている。建物に木を多用したやわらかい雰囲気の中で、小規模で家庭的な暖かさを大事にしながら、通い、訪問、泊まりの3つのサービスを柔軟に組み合わせて、ご利用者が安心して地域の中で生活を継続できるよう支援にあたっている。また認知症を持つ人への非薬物的療法的な効果を期待して音楽、ニュースポーツ、ゲーム、クラフト、回想などアクティビティの充実に努めている。
事業所名	小規模多機能ホーム きいちご倶楽部	管理者	楯野義浩		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所スタッフ	その他	合計
	1人	1人	2人	0人	0人	1人	0人	1人	0人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	毎月1項目ずつ事業所自己評価における改善計画について評価を行い話し合う。改善できる項目は即時的に改善を行い、難しい場合は阻害している要因を取り除く努力する事から行い改善できるようにする。	サービス評価項目について毎月1項目ずつの事業所評価に対する話し合いは、毎月は出来なかったが、少人数で集まり、事業所評価に関してできてない点を話し合い、全職員に周知し、改善しようとしたことは何度かあった。	出来ていない等の回答が半数以上ある。原因分析を行い、職員間で問題を共有し、具体的な取り組みを行う必要があると思います。自己評価での改善点について話し合いの機会を持って欲しいと思います。	それぞれの自己評価での改善点について話し合う機会を作り、意見交換をする事により良いサービスに繋げる。
B. 事業所のしつらえ・環境	整理整頓・美化・衛生面を常に心がけ、快適な居場所と居心地の良い事業所作りを意識する。	手洗いや消毒などは出来たが、空気の入替えや従業員の休憩時間の過ごし方など問題があり、2回のクラスタを発生させてしまった。感染症に対する職員の意識の低さが原因と思われる。以降は、職員の新型コロナウイルス感染症に対する意識も変化し、徹底した対策を行っている。	玄関に施錠をされておらず、解放感を感じます。室内も圧迫感がなくいいと思います。地域かかわりシート①に対して「いい」「分からない」と回答する項目が散見されます。理解してもらう為の説明が必要だと思います。運営推進会議の場がGH暖らんでの開催が多いため、きいちご倶楽部の施錠の状態や様子を機会がなく評価が難しいと感じました。	運営推進会議や情報紙を通じて事業所のしつらえ等を伝え意見助言を頂きながら改善をしていく。運営推進会議のメンバーの方々にも年に1度はきいちご倶楽部にも訪問いただき、環境やしつらえ等を見ていただく。
C. 事業所と地域のかかわり	まずは、地域の方々に小規模多機能の事業内容を知っていただく為、自治会に回覧板等にて周知して頂く。介護相談も行っている事を知って頂き、地域の抱える困り事にも対応する。	各地区の自治会長が誰なのか、知る機会が作れなかった。回覧は1自治会のみ配布を依頼、内覧会も実施したが参加は1組のみであった。また、地域からの相談等も無かった。	地域の実情をよく知っておられる地域住民との繋がりを、せっかく持っておられるので、その方にご協力を依頼されることも入口の1つの方法だと思います。介護相談はいつ行かれてもいいのか、と聞かれた場合の対応策を検討された方が良いかと思います。また、どうすれば相談に乗ってもらえるか、分かる資料が必要と感じました。	実情をよくご存じの地域代表の方と相談を重ね地域との関わりをもつ方法を探り、計画を周到に立て実施していく。事業所にて催し物を開き、来所された時やお話に来られた時などに事業内容や介護相談を行っていることなどを周知する。

<p>D. 地域に出向いて利用者の暮らしを支える取組み</p>	<p>運営推進会議出席の地域代表の方や町内会長様自治会長様と連携をとり、地域内での問題等をお伺いし、一緒に問題点を解決できるように努める。まずは地域内連携をとれる体制を作る。</p>	<p>地元の自治会長の方 1 名と連絡が取れ、回覧板を回して頂いた。他の自治会長の方や地域代表の方、民生委員の方との接点は持てなかった。</p>	<p>地域のどこにどんな風に働きかけることが出来るのか、何をどんな形で示すと良いかなど、より効果的な在り方を探る事が出来ると良いと思います。地域の行事等への参加や施設の利用がしやすくなる仕組みが必要ではないでしょうか。各自治会長がどなたか、知る機会を作る事は今後も必要な取り組みではないと思います。</p>	<p>まずは、各自治会長様や民生委員、地域期の代表の方々と接点を持ち、地域との繋がりを作っていく。その上で、地域ときいちご倶楽部との接点の持ち方を双方で考え、地域に出向いて交流を図る。また、ご利用者にも外出レクを通して、地域に出ていき楽しんで頂く。その中で地域の方との交流を図っていく。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>運営推進会議の中で、地域に或る困り事や相談事を発言して頂き、その場で回答が難しい場合は、課題とし、地域と一緒に解決に向けて取り組む。</p>	<p>運営推進会議は概ねオンライン会議となり、例年ほど地域の方と活発な意見交換や情報収集はできなかった。</p>	<p>地域の方々に小規模多機能のサービスを知ってもらうために、まずは運営推進会議でサービスの説明を改めて行ってみたいのでしょうか。地域にもいろんな悩み事を抱えた方がおられる筈なので、その方々の受け皿になってもらいたいです。</p>	<p>運営推進会議で出た意見を事業所会議の議題として取り上げ改善に努める。また、運営推進会議で出された課題に対して、改善策を話し合い、双方協働にて対策をたて実施していく。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>火災避難訓練(日中及び夜間)、地震避難訓練、風水害避難訓練を実施、実際に災害が発生しても、スムーズにけが人等を出さずに避難が出来るような緊張感のある訓練を行う。避難行動に必要な防災用品の整備に努める。</p>	<p>火災訓練は夜間、日中と1回ずつ出来たが、自然災害での避難訓練は出来なかった。</p>	<p>事業所の防災計画に関してはなかなか知ってもらう機会は少ない。簡単に閲覧できる様に見やすい場所に置いてはどうでしょうか。運営推進会議の場で、避難訓練の詳細な実施報告や事業所の防災に向けた取り組みを報告するようにはどうでしょうか。</p>	<p>火災避難訓練および自然災害訓練を実施、実際に災害が発生しても、スムーズにけが人等を出さずに避難が出来るような緊張感のある訓練を行う。避難行動に必要な防災用品の整備に努める。</p>